



筑波大学附属病院 茨城県地域臨床教育センター [ 広報誌 ]

# 茨城県地域臨床 教育センターだより

2013  
Vol.07

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121 平成25年8月1日発行(第7号)

## 第1回筑波大学附属病院 茨城県地域臨床教育センター講演会

センター長教授 島居 徹

平成25年5月17日(金)に、第1回の当センター主催の講演会が行われましたので、その報告を兼ねて概要をご紹介します。「いばらきVTEシンポジウム」(図1)と称して、浜松医療センター院長の小林隆夫先生をお呼びしてご講演をいただきました。

下肢の深部静脈血栓症から続発する肺血栓塞栓症は総じて静脈血栓塞栓症(VTE)と呼ばれ、近年、エコノミークラス症候群として社会的にも認知される疾患となってまいりました。新潟の震災時に車中泊されていた被災者が本疾患で命を落とされたのはまだ記憶に新しいところです。このVTEは手術後にも発生することが知られていますが、2002年に我が国で行われた疫学調査では、腹部手術後(外科、産婦人科、泌尿器科)のVTE発生率は海外の発生率15-40%に匹敵する24.3%であることが報告されています(図2)。このような背景から、手術後のVTEの予防には早期離床、下肢弾性ストッキング、間欠的空気圧迫法(IPC)による下肢マッサージ、抗凝固療法による薬物予防までを発生リスクの大小に応じて、使い分けることが診療指針で示されています。この中で薬物予防は出血という副作用がありうるため、効果と副作用のバランスをみながら行うことが必要で、VTE発生のリスクが高い手術でも出血副作用をおそれて薬物予防が行なわれない場合もあり、本講演会では、まず茨城県立中央病院の麻酔科から麻酔科学会で集計している手術後のVTEの発生状況を報告いただき、ついで外科、婦人科、泌尿器科、整形外科の各診療科から術後VTE予防の実際をご紹介いただきました。その後、この領域ではリーダー的存在である小林隆夫先生からVTEの一般論から予防方法と薬物予防の必要性、浜松医療センターでの予防の実際などについて講演していただき、討論が行われました。

各科の報告では、婦人科、泌尿器科、整形外科は薬物予防を導入しているものの、外科では術後の出血リスクが低いこともあり、薬物予防は今後の課題という報告でした。小林先生からは、疾患・手術の内容によってはストッキングやIPCなどの理学的方法では予防しきれない高リスク群があり、抗凝固予防の必要性が説明されました。ただ薬物予防は出血リスクもあるので、各々の患者さんに応じて個別化した過不足ない予防方法の選択が必要だろうということが強調されました。またVTEのスクリーニングの血液検査(D-ダイマー)の基準値に関する解析なども示され、明日の日常診療に役立つ情報をお教えいただきました。

手術後のVTEの発生は、せっかく原疾患が治療された後に不幸な転帰をとる危険性があるため、本疾患の可能性と予防の必要性を認識することが必要で、当センターでは今後も啓発活動に取り組んでいく予定です。

(図1)

**いばらき VTE シンポジウム**  
第1回 筑波大学附属病院 茨城県地域臨床教育センター講演会

日時：平成25年5月17日(金) 18:30～  
場所：茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター 災害医療センター  
茨城県笠間市鯉淵 6528 TEL 0296-77-112

開会の辞 筑波大学 教授 茨城県地域臨床教育センター センター長  
茨城県立中央病院 医療教育局長 島居 徹先生

パネルディスカッション (18:30～19:30)  
テーマ：「術後静脈血栓塞栓症の予防」  
司会：筑波大学 茨城県地域臨床教育センター 教授・副センター長  
茨城県立中央病院 婦人科 沖 明典先生

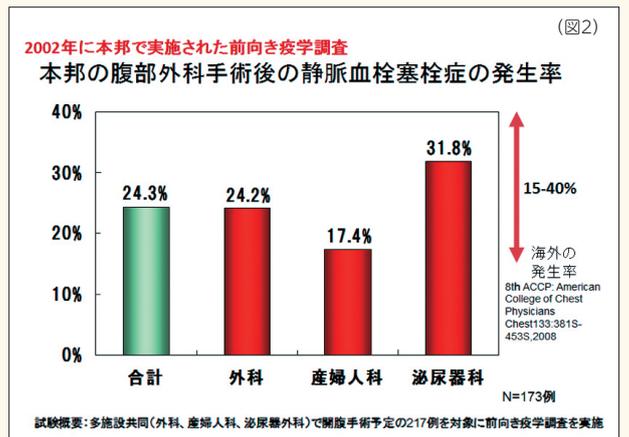
パネリスト：  
・「周術期肺血栓塞栓症の統計」  
筑波大学 茨城県地域臨床教育センター 准教授  
茨城県立中央病院 麻酔科 星 拓男先生  
・「消化器外科領域」 茨城県立中央病院 消化器外科 佐々木 和人先生  
・「整形外科領域」 茨城県立中央病院 整形外科 高木 健太郎先生  
・「婦人科領域」 茨城県立中央病院 婦人科 高野 克己先生  
・「泌尿器科領域」 茨城県立中央病院 泌尿器科 吉野 喬之先生

特別講演 (19:30～20:30)  
座長：筑波大学 教授 茨城県地域臨床教育センター センター長  
茨城県立中央病院 医療教育局長 島居 徹先生  
『周術期静脈血栓塞栓症の現状と予防』  
浜松医療センター 院長 小林 隆夫 先生

閉会の辞 茨城県立中央病院 院長 永井 秀雄 先生



小林隆夫先生



## 循環器センター3年目へ



准教授

武安 法之

専門領域 ■ 循環器内科  
 ■ 虚血性心疾患  
 ■ 心血管カテーテル  
 ■ 治療



講師

徳永 千穂

専門領域 ■ 心臓血管外科

茨城県立中央病院循環器センターが開設してはや2年が経過し、この2013年4月から3年目を迎えております。すべての循環器疾患患者を24時間受け入れ可能な体制を整えつつ、この2年間のセンター病床稼働率は85%以上を維持し、当院の循環器診療の進歩に大きく貢献してまいりました。茨城県をはじめ県立中央病院のあらゆる部署のスタッフから多大なご協力をいただきましたおかげで、ここまで無事に運営してこられたものと感謝しております。この場をおかりしまして、心より御礼申し上げます。

CCU病棟は、オープン4床、個室2床で集中管理を行っており、救急外来から、手術室、カテーテル室、病棟まで患者さんのモニター監視を含めて一貫して観察継続することができるシステムを構築しております。CCU病棟と手術室・カテーテル室は直接つながっており、緊急を要する症例の場合ではCPRを行いながら移動・入室することも可能で、実際そのような治療経過を経て救命し得た症例もあ

りました。PCPS、IABP、ペースメーカー、透析療法をはじめほぼあらゆる集中治療を提供できる環境にあります。さらにはCCU・5西病棟満床時の受け入れには、ICU・HCU病棟に協力いただき、ときにはICU病棟で循環器緊急の患者さんケアをお願いするような事もありました。おかげさまで、この2年間搬送依頼のお断り事例は1例もなかったと存じます。

循環器センター開設は、当院循環器診療の拡充に大きく寄与してきました。開心術を含めた手術症例は年間39例と増加し、特に予定緊急(9例)および緊急手術(5例)が増加傾向にあります。不整脈診療におきましては、アブレーション治療症例が年間91例と飛躍的に増加し、今年は150例近くになるペースで症例を重ねております。県央、県北で心房細動に対するアブレーション治療を行っている施設がないこともあって、紹介患者さんはさらに増加しております。また、難治性不整脈に対する植込み型除細動器手術、重症心機能低下症例に対するCRT-D植込み手術も開始しました。虚血性心疾患領域では、石灰化複雑病変へのロータブレード治療を新たに開始しました。2012年10月から入院患者さんに対する心臓リハビリテーション療法を開始し、心筋梗塞後、開心術後、うっ血性心不全、拡張型心筋症、肺高血圧の方まで、幅広くおこなっております。さらには、力及ばずなくしてしまった方からの臓器移植(死後腎移植、角膜移植)をお手伝いさせていただいたことも特筆すべき事でありました。

しかし、なんといっても強調すべきことは看護ケアの充実です。CCU・5西病棟とも、最も患者さんの近くにいる看護師によるケア充実こそが循環器チーム最大のアピールポイントと考えています。ひとえに看護スタッフ全員の努力の賜物です。今後も切磋琢磨してさらに多くの患者さんに、より質の高いcare, cureをチーム一丸となって提供してまいります。



循環器センター 医師スタッフ



CCU 専従看護チーム

筑波大学  
University of Tsukuba

筑波大学附属病院 茨城県地域臨床教育センター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121

ホームページ <http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/cyubyo/rinsyokyoiku/index.html>

茨城県